

# 学 園

地方競馬益金事業

題 字 理事長 長野 士郎

平成4年2月10日発行

財団法人

中国四国酪農大学校

電話(0867)66-3651

# だ よ り



特別講義 講師ペギーヘンダーソンさんと第27期生



# 教務課だより



酪農後継者、技術者の養成を目的として、専門科目や一般教育課目の充実をはかりながら、一方では校外からの体験実習生の受入れ等積極的なPR活動を行いました。

その主な行事は次のとおりです。

### ○卒業証書授与式

平成三年三月二十五日、第二五期生の卒業証書授与式が挙行され、希望に燃えた若者十八名が本校を巣だっていました。

### ○第二七期生入学式

平成三年四月五日、新たな酪農を担う若者二十二名が入学しました。内訳は男子二十名、女子二名です。

### ○県内若者とのふれあい

「燃えろ岡山わかものふるさとづくり、牛とのふれあいコース」に参加し、体験学習生二五名(内女子二名)を五日間受け入れ、本校の学生

と共に搾乳実習、一昼夜かけての乳牛動態調査などを実施し、大変好評を受けました。

### ○酪農ヘルパー研修生の受入れ

(社)酪農ヘルパー全国協会の研修施設指定を受け、三名の研修生を送りだし、ヘルパー要員の養成に着手しました。

### ○削蹄師講習会

(社)日本装蹄師会主催の削蹄講習会を実施し、一般受講者と共に二六期生十二名が受講しました。

### ○家畜人工授精及び受精卵移植講習会

平成三年度の家畜人工授精は一月六日から、又受精卵移植は二月から開催され、二六期生全員が受講し、頑張っております。

### ○特別講義の開催

学生的一般教養等知識の高揚をはかるため、地域リーダー

として活躍している本校卒業生、各分野で活躍されている方々十三名を招いて、法律、経済、農業問題等広範囲にわたる分野の特別講義を実施しました。

### ○校外視察

広く校外に教育の機会を求めて、岡山県総合畜産センター岡山県経済連家畜市場・(社)家畜改良事業団・岡山種雄牛センター・雪印乳業津山工場・岡山県畜産共進会等視察を実施しました。

### ○リクレーションの実施

学生間及び職員との親睦を深めるために、ソフトボール、バレーボール、ボートリングなどの球技大会。又地域との交流をはかるために蒜山体育祭に参加し、職場対抗男子リレーで優勝しました。

### ○クラブ活動の充実

軽音楽・華道・茶道器具を購入して、新しくクラブを結成し、男生徒は憩いの場として軽音楽。女生徒は花嫁修行としての華茶道に頑張っております。

また、スポーツ用品も、ソ

フトボール・スキー用具等多種目の用具を整備し、学生の余暇の充実をはかりました。さらに三月には、日本馬事協会から、「アメリカンオー

ターホース」の寄贈をいただくことになっており、本校のイメージ向上に役立つと期待しています。





○本校用地の完全舗装  
念願でありました校舎、牧場等の広場の舗装が真庭地方振興局の御援助により完工しました。

○修学旅行  
第二六期生が十二月に北九州に修学旅行に行き本校学生としての最後の旅を楽しんできました。

修 学 旅 行

昨年、六月三十日、第十期生が、久し振りに蒜山で集まりました。

早いもので、卒業から十五年、時々、あの頃の事がとてもなつかしく思い出されます。不注意で、前夜、腕を六針縫う怪我をしてしまったのですが、みんなに逢いたい一心で出かけて行きました。

十二名と、あまり多くはありませんが、集まった友の顔はとてもなつかしく、楽しい時間を過ごしました。

ちっとも変わらない者、それなりな者……学生時代の裏話も「今なら」ってタップリ聞かせてもらいました。欠席者は何を言われるか、たまったものじゃありませんね。

傷もすっかり、アルコール消毒、

五年後の再会を約束して、長い一日を終わりました。次回は佐々木君の世話で、場所は高松です。もう、カウントダウンした年賀状が届いていましたよ。

平成八年を楽しみにしてい

卒 業 生 短 信

最後に、次の朝、散歩がてらに寄った、二牧で飲ませてもらったこと、コーヒーのおいしかったこと、この場を借りてお礼申し上げます。

(寄稿者)  
広島県 松本美喜枝



第 10 期 生 同 窓 会



# 学生だより

## 「卒業にあたって」

第二十六期 広島県

甲斐泰弘

二年前の入学式の日、朝から雪が降り出し、あっと驚いた時の事がとても懐しく鮮明に思い出されます。私の家は非農家ですが、私自身、酪農に興味があり、先生方、先輩方、同期生のみんなに作業、知識などを一から教わり、酪農がとても奥深いものだと思えました。私は酪農に関して、まだまだ無知ですが、校内での作業や授業、六ヶ月間の校外研修で、厳しさが少しは分ったつもりです。その反面、とてもやりがいのある仕事だと感じたのも確かです。現在、酪農には、いろいろな問題が押し寄せています。私は、「ゆとりが持てる酪農」がこれから実現すれば、と思います。私も今春からは社会

人となり地元の子チヤス乳業(KK)に就職が内定しておりますが、中国四国酪農大学校で学んだ事を、直接的ではなくても、生かして頑張ります。後輩達も是非とも頑張つて有終の美をかざっていただきたいと思えます。最後にこの二年間、お世話になりました皆様、心から感謝致します。本当にありがとうございました。

## 「酪農大での二年間で 思ったこと」

第二六期生 大阪府

杉本盛一

一昨年の四月に入学して、早くも二年間が過ぎ、卒業まで数ヶ月となりました。入学したばかりの頃は、酪農後継者でありながら、充分な知識もなく、なんとなく本校に入学した感がありました。入学後の日々は、きびしい毎日でしたが、自分にとって

は酪農に生きるといふ気持ち芽ばえ、酪農後継者となる心の準備ができたような気がしております。

今日の酪農は、とても厳しい情勢で、牛肉の自由化、乳価の未決定、ぬれ子価格の低落等明るい話題が少なく、酪農王国北海道においても、酪農をやめて行く人が多くなってきました。

私は近郊酪農ですが、環境問題等幾多の解決しなければならぬ問題をかかえております。

こういう厳しい情勢下での酪農経営をより良いものにして行くため、本校内外で学んだ色々な知識・技術を役立てながら、足腰の強い「我が経営」を確立するために頑張つていきたいと思えます。

二年間色々とお世話になり、ありがとうございました。



## 今まで過ごして来て、感じることに

第二七期生 兵庫県

山口貴士

本校に入学して、一番思ったことは、高校とは比べものにならないくらいきびしいことです。

学科と実習併用による実践教育、酪農経営をやるうえで必要なことを身をもって修得する教育方針です。

例えば高校時代は、実習にしても一つの事をやれば終わりであったが、ここでは色々な実習が待っている。

時間の過ぎるのがとても早い感じがするが、身体の方はぐったりである。

高校時代とは違うシンドさを感じているが、このシンドさを絶えて社会に出なければと頑張っている。

本校に入学したときは、友達も少なく、はつきりいってやめようかと思つたこともあったけど、最近楽しく思っている。寮生活も高校では兵庫県の生徒だけだったのが、本校では全国から来ていて、色々

な地方の話が聞け、全国色々な所に友達が出来て、とても良い所だと僕は思っている。それに先生もやさしい人で、わからない所があればきちんとわかるまで教えてくれる。

僕の本校での目標は家畜人工授精師、受精卵移植の資格を取得することです。

これからは去年の反省を含めて、尚一層の努力をして、目的をはたせるようガンバリたいと思っております。



平成三年度の内部移動により、谷田場長が教務課長に、教務課の平本技師が第一牧場長となりました。

さて、今年度は数々の牧場施設整備を実施しています。

第一に、二〇年近く使用してきたパイプラインを更新（ストラング、自動離脱装置付き）したことです。より一般的な酪農施設で、学生たちに効率的で実践的な搾乳技術を指導したいと考えていた私たちにとっては、大きな福音となりました。

第二に、農機具庫（建設中）の新設です。本施設の建設により、作業頻度の高いトラクタ―などの機械類を一括管理できるようになり、作業能率が改善されると期待しています。また、この建物には、酪農機械演習用の施設が設けられることが大きな特徴のひとつです。これにより、来年度からは、酪農経営上重要な「機械の保守管理技術指導」が、より実践的となることと



第三に、和牛舎（建設中）の新設です。これは、受精卵移植技術の供卵牛として、和牛二頭を飼育するためのものです。厳しい酪農情勢の中、注目されているこの技術は、従来からカリキュラムに取り入れられていましたが、今後、より充実することと期待しています。

次に、今年度の牧場の概要を表一に示しました。飼養頭数の増加は肥育牛によるもので、搾乳規模については例年と変わっていません。ただし、今年度は雌牛出生率が二〇％と低く、育成牛が減少したため、北海道桜野牧場から、初妊牛二頭を導入しました。

一方で、牛乳の品質向上に努めてきましたが、表二に示したように、年々改善されてきています。



最後に今年度の粗飼料生産について述べてみますと、夏期の低温と鳥害に悩まされ、トウモロコシの生産量が大幅に減少しました。しかしながら、昨年度導入したロールペラーを利用したロールサイレージ体系を多く取り入れたことによって、なんとか確保することができました。

以上、今年度の第一牧場の概要を述べましたが、毎年整備を重ね、随分と変貌しています。お近くにおいでの際は是非ともお立寄りください。



▲ラッピングマシン導入

表2 生乳検査成績（年間平均値）

	元年度	2年度	3年度
乳脂率 (%)	3.50	3.61	3.72
蛋白質率 (%)	3.24	3.18	3.35
無脂固形分率(%)	8.84	8.83	8.90
細胞数 (万/ml)	16.2	21.2	14.2
細菌数 (万/ml)	2.71	1.25	0.75

表1 飼養頭数

	搾乳牛	乾乳牛	小計	未經産牛 (19ヶ月以上)	育成牛			小計	飼直し	肥育牛	合計
					12~18ヶ月	6~11ヶ月	6ヶ月未満				
平成3年 1月1日現在	34	4	38	6	8	4	5	23	0	91	152
平成4年 1月1日現在	31	7	38	12	5	0	4	21	2	109	170



暖冬といわれながらも三木ヶ原では、連日スキーを楽しみ家族連れでにぎわっていますが、みなさんいかがお過ごしでしょうか。

本年度第2牧場では、長尾技師が岡山県総合畜産センターに転勤となり、かわりに藤原技師が高梁農業改良普及所成羽支所より配属となりました。場長以下七人のスタッフで学生の指導、生乳生産量等の目標達成に日夜頑張っております。

さて、平成三年度は度重なる、いわゆる週末台風がおそってきましたが、みなさんのところでも大なり小なり被害をこうむられたのではないのでしょうか。当牧場においても牛舎、

農機具庫の屋根、壁板がはがれるなど近年にない大きな被害を受けました。しかしなんととっても蒜山のシンボルともいえるポプラ並木のポプラが合わせて約50本が倒れてしまいい残念でした。放牧、収穫作業に大きな支障をきたし、校長以下学生職員で片付けに大変苦労しました。幸いトウモロコシは昨年度台風の教訓を生かし八月末から収穫を始めたため、収量は低いものの、七haすべて倒伏前に調整することができました。

自給飼料といえ、昨年度に導入したロールペーラーも本年度は本格的に稼動し、約百三十個のロールサイロができてきました。品質的にも

まずまずのものができ、来年度以降さらに重要になってきそうです。蒜山地区ではロールの山があちこちで見られ、新しい蒜山の風景となっています。

本年度は当牧場が蒜山地区の観光の目玉としてさらに動き出した年でした。まず四月には岡山のリオンズクラブとともに老木化の激しいポプラに対して新しい苗を定植、そして五月、九月には関係機

関の働きかけにより県道沿い草地の一部分にヒマワリ、コスモスの定植などが行われ、通行者や観光客の目を楽しませました。また一年を通じて蒜山地区を環状に走る県道(第二牧場の草地の一部分も通過)の工事が行われました。平成四年の完成後には横断道のインター開通にあわせてさらに多くの観光客が訪れることとでしよう。通常の業務に加え、蒜山ジャーシーランドの



核、蒜山観光の目玉、そしてなんととっても子供達が遊びに来れて、牛乳消費拡大の一翼を担える牧場として頑張っていきたいと思っておりますので、良いアイデア等ありましたらお寄せください。まずはぜひ第二牧場にお立ち寄りください。それでは、

### 職員紹介

校長	山形 幹夫	部長	大内 卓也	次長	岡本 宗三	校次	岡本 宗三
副校長	谷田 重遠	部長	森岡 洋	主任	津田 清子	部長	津田 清子
技師	池田 幸子	部長	道祖 良子	技師	江本 圭二	技師	江本 圭二
技師	西田 良子	技師	樋口 照夫	技師	樋口 照夫	技師	樋口 照夫
技師	名越 志郎	技師	中村 浩三	技師	中村 浩三	技師	中村 浩三
技師	藤原 英努	技師	牧野 俊博	技師	牧野 俊博	技師	牧野 俊博
技師	磯田 博仁	技師	磯田 博仁	技師	磯田 博仁	技師	磯田 博仁
技師	有富 孝徳	技師	有富 孝徳	技師	有富 孝徳	技師	有富 孝徳
技師	三牧 孝徳	技師	三牧 孝徳	技師	三牧 孝徳	技師	三牧 孝徳